

(再開 午前10時35分)

**議長 (勝山 正)**

休憩前に引き続き会議を開きます。

4番 山本隆樹 議員。

(「はい、議長。4番。」の声あり)

(4番 山本隆樹 議員 登壇)

## 1. 村の観光行政について

**4番 山本隆樹 議員**

では、木島平村の基本目標は「農業と観光を基軸とした交流の村づくり」です。大きな転換期にきています。やる気次第です。希望もあると思います。そこで、村の役割、方向性を確認したく2点質問いたします。

1点目、村の観光行政について質問いたします。

村の観光関連組織の一つ、第三セクターであった木島平観光は民営化でスタートしました。民営化により観光に対する概念・考え方・経営手法も変わってくると思います。

期待するとともに、DMO 推進の要としての役割（観光地域づくりを行う舵取り役）の木島平村観光振興局としても弾みがつくとともに、一層の統率が求められます。

村として、行政、観光振興局を中心に、役割、連携を図り、活性化に取り組むとしています。

そこで、質問いたします。

民営化になったための懸念材料、村の観光行政としての役割、方向付けをどうとらえているのか。

地域活性化起業人の位置づけは、どう捉えているのか。お聞きしたい。

**議長 (勝山 正)**

日碁村長。

(村長「日碁正博」登壇)

**村長 (日碁正博)**

それでは、村の観光行政についてのご質問であります。村の観光の考え方につきましては、昨日、湯本行浩 議員にお答えしております。

方向とすれば、施設管理や施設運営型から、資源の発掘・活用・連携、さらに、元来村にある自然資源や人との交流・関係づくりにベクトルを移していくことが大切だと考えております。

観光振興局のコンセプトの「人づくり×里山」のような、村全体を見ながら組み立てていく必要があると考えております。

懸念というお話ではありますが、課題としては、木島平村の観光というものをどうあるべきか等含めて、もう一度組み立てる転換期と考えております。そのため、地域活性化起業人のアドバイスによるコンセプトや地域おこし協力隊を活かした取組によって、村の目指すものが少し見えてきたのではないかと考えております。

**議長 (勝山 正)**

山本隆樹 議員。

## 再質問

**4番 山本隆樹 議員**

懸念材料として、こんなこと懸念しているのかというのは、ちょっと見えてこなかったのですが、自分としては、観光協会から観光振興局に変わっても、当時の第三セクター木島平観光(株)に対して、

宿泊する際のリフト券の助成を求め、第三セクター木島平観光もスキー場振興のため受け入れてきたと。結局、第三セクターのバックに村がついているからこそできた対応というふうに、リフト券の補助を受け入れたために、民宿、ペンションがお手軽の価格で勧誘できている、そういうことを第三セクター木島平観光がちゃんとやってきて、それを受け入れてきたために、村の負担にも繋がっていったという原因もあるのではないかと思います。

それと、これからの調布スキー客とも好意に受け入れて、第三セクターだからこそ上手に、安く、うまくやっていった条件もあったと思います。

そこで、質問したいのですが、民営化の波及というのは、期待も込めて予想以上に大きいと思います。

懸念としては、物価高、電気代高騰によるリフト券のアップ等もあると思いますが、今まで受け入れてきたことが村への、民営化ではちょっとこれできない、村の方へちょっと助成を頼まないとかやっていけないというようなことが多分、いろいろ出てくるのではないかなと自分では思っています。

村民優待券など、いろいろ今まで福祉関係もあったりして、第三セクターだからこそ村民もうまく訪れたり、いろんな形でできたことが、もしかしたら、大きな民営化によって、そういう村民の助成については、村へお願いしていかなくてはいけないだろうというようなことも考えられると思います。

そういう懸念をどうされるのか、どういうふうを受け止めて、うまくやっていけるのか、その辺をお聞きしたい。

それと、もう一つ。例えば、飯山と木島平のスキー場のシャトル便を直に運営したいと言った場合、木島平観光単独でするのであれば問題ないですけど、途中で停めたり、停まったり、村の観光施設の人のためにも途中で停まったりしたときに、木島平観光(株)から村へ、村と振興局が中心となって運営を要求された場合、そういうのはどういう形で受け入れてもらえるのか。

そんなことないとするのか、多分、民営化としても、自分のところの直便だけじゃなくて、そういう村民のどこかの観光拠点、停まり、乗車するところが一つでも二つでもあれば、それは直便というより、振興局でそういう準備をしいのではないかなということをお願いされた場合、村としてどうするのかかなという、ちょっと自分なりに懸念がありました。

というように、この2点と、だからこそ振興局の会員の統率、それが一層求められると思います。今までできていたことが、なかなか今度は通らない。民営化の要求、いろんな形での制約で、なかなか今までできたことができないような不満が会員にも出てきてしまうのではないかな。

ますます統率が求められてくるのだと思います。そこへ・・・

#### **議長（勝山 正）**

山本議員、ちょっと途中でいいですか。

何をどう聞きたいのか、具体的に話してもらっていいですか。

#### **4番 山本隆樹 議員**

今では分からないですか。

#### **議長（勝山 正）**

何を言いたいのか、ちょっと見えてこないところがあるので。

#### **4番 山本隆樹 議員**

今、懸念されている、民営化になったためにできないこと、観光(株)の方から村への優待券など要求されてきたときに、今までできていたことができないことを村へ要求されてきたときに、それにどう対応されるのか、お聞きしたいです。

## 議長（勝山 正）

そういうことなのですね。分かりました。

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

## 村長（日墓正博）

確かに、完全な民営化ということで、当然企業でありますので、収益が一番優先されるのだらうと思います。これまでの第三セクターと村の関係、村民の関係とは、若干変わってくるということをご理解いただいていると思います。

そんなことで、今の小・中学生等のリフト券については、今度村の方で負担したいと考えています。

それから、リフト料金の設定などについては、企業として当然最適な額を提示してくるのだらうと思います。

それからまた、送迎については、基本的には、宿泊施設については自分のお客さんは自分で送迎するというのが大前提であると思います。

ただ、スキー場となると、スキー場は村の施設、要するに、それ以外の皆さんも利用するものでありますので、もしそういう話があれば、また検討しなければならないと思いますが、いずれにしても、村とすれば、民営化した以上は、その企業がしっかりと経営をすることによって、より多くの皆さんを集客して、村の経済にプラスになることを期待しているわけでありまして、その辺については、もしそういう話があればですが、仮定の話はなかなかできないわけでありまして、また、皆さんとも相談したいと考えております。

## 議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

## 再々質問

### 4番 山本隆樹 議員

再々質問させていただきます。

村中を巻き込んだ観光行政の舵取り役というのが、観光振興局です。木島平の観光施設、歴史的施設、無形文化財、そこへ農業を組み込み、いろいろな面から観光客を誘致し、活性化につなげることだと思います。

近年、農業と観光を結び付ける「アグリツーリズム」、似た言葉で「グリーンツーリズム」もあります。農業の新しいビジネスモデルとして、都市部の人々が農村との交流を楽しむ、そういう姿です。

木島平としても、観光に農業を組み込み、体験農園、農家レストラン、また、今やっている包括連携協定を結んだ業者とのビーガン加工品の試作、笹寿司、いもなます等、地域ならではの食の体験、そこへ耕作放棄地活用と観光の取組を通じての誘致ということで、振興局のやることというのは未来あると思います。

振興局の統率、これからの歩みというのは、振興局にかかっていると思うのですが、そういう統率、これは、振興局だけじゃなくて村の農業振興公社等いろいろな形で巻き込んだ形で、トライしていただきたいのですが、それについて答弁お願いいたします。

## 議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

（産業企画室長「湯本寿男」登壇）

## 産業企画室長（湯本寿男）

それでは、私の方から再々質問にお答えいたします。

観光振興局が中心になってというお話ですが、村とすれば観光振興局にもお願いをしながら、村の観光行政としてどういった形にしていくか、先ほど冒頭で村長申し上げたとおり、山本議員おっしゃるように、資源の発掘、連携、そもそもある村のものを活用していくことということで考えておりますので、その辺はまた、観光振興局の方にもそういったご意見を伝えていきますし、また、議員の方からも振興局の方へそんな提案をしていただけると、我々とするとうれしいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

**議長（勝山 正）**

山本隆樹 議員。

## **2. 耕作放棄地対策について**

### **4番 山本隆樹 議員**

観光に農業をということで、耕作放棄地対策の一環にもなるように取り組んでいただきたいと思ひます。

2番目の耕作放棄地対策についてということで、質問に入らせていただきます。

遊休荒廃地、耕作放棄の解消や発生防止のため、村の農業委員会、農業振興公社が中心となって施策に取り組んでいただひています。

日本の多くの地方が抱える問題です。農家の高齢化や農産物価格の収益性の低さなどがひびき、農家の減少が加速していることもあり、耕作放棄地が増えています。

直近でも、高齢化で畑ができなくなり、振興公社に相談したが、条件が合わなく困っているとの声も直接聞きました。

巷では、日本の食料自給率の低さ、世界で最初に飢えるのは日本だ、農業消滅の危機を自覚し、食と農業の再考を訴えている学者もいます。

世界的な食料自給情勢の悪化、気象の変化もあり、食と農の再考は、地域振興にきっと役立つと思ひます。

そこで、少しでも耕作放棄地の発生防止に向け、前向きな木島平モデルができないか質問したい。

一つとして、現状の耕作放棄地、遊休農地の推移と現状をお聞きします。

2番目、条件が合わず、振興公社が断った事例と件数、また、振興公社の果たす役割は重要で、村になくてならない担い手の一つです。就農者を受け入れる窓口も含めて、自分としては、納得した補助金を入れて、充実した振興公社が求められます。これからの振興公社の役割をどう捉えているのですか、の質問をさせていただきます。

**議長（勝山 正）**

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

**村長（日墓正博）**

耕作放棄地対策についてのご質問ですが、3点目の農業振興公社の役割についてお答えさせていただきます。

農業振興公社は、担い手農家及び兼業農家並びに高齢農家の効率化かつ安定的な農業経営を支援すると定款に定められております。

具体的な役割として大きなものは、担い手への農地の利用集積のため、出し手、受け手のつなぎ役、農地の有効利用に結び付けていくこと、農産物を通じた特産品開発、都市地域住民との交流に関する事業として、農村地域の発展に寄与することと考えております。

耕作放棄地対策の面から申し上げますと、管理耕作を行いながら担い手につなげていくこともありますが、担い手においても管理しきれない条件不利的なところもあるのは実情です。畑については、そばの作付けをしながら管理を行い、畑作農家へとつなげていければと考えております。そのほかの質問については、産業課長に答弁させます。

**議長（勝山 正）**

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

**産業課長（湯本寿男）**

それでは、私から2点のご質問にお答えいたします。

まず、1点目の耕作放棄地、遊休荒廃地の状況ですが、農業委員会が行う農地パトロールの結果で、令和元年では128.1ヘクタール、令和2年では102.2ヘクタール、令和3年では100.8ヘクタール、令和4年で83.5ヘクタールとなっています。

なお、この面積については、すでに山林化している、復旧が困難な農地として毎年、平均で10ヘクタールほど非農地化しての面積であります。

2点目の農業振興公社で管理耕作を受けられなかった状況ではありますが、すでに荒廃化している、または、面積が小さく機械耕作ができない、担い手につなげたが受けてもらえないなどといった、条件不利農地を中心として、令和3年度からの合計で約45件、2.6ヘクタールほどとなっております。

**議長（勝山 正）**

山本隆樹 議員。

**再質問**

**4番 山本隆樹 議員**

前にも質問で、遊休荒廃地や耕作放棄地を利用して、山菜、果樹の収穫、きのこ狩り等のできるほ場を整備し、都市に住む人々を呼び込む、小学校・中学校などに関わってもらって、自然の学び、郷土愛を養い、次世代を担う人材育成にも役立つのではないですかという耕作放棄地対策をパブリックコメントで寄せられたこともあります。

本当に、そういうところを、岳北の地域の人たち、都市に住む人々の賛同する人たちで蘇らせるモデルケースを木島平で作れないかということを質問いたしました。

それには実際、日々管理していただく人、誰が主体として事業を展開していくのか、採算が取れるのかという課題があるということで、実現はしていません。

村長からも、当時、農業委員会を担当していた頃、山菜、ワラビを中心に植え、モデル的な荒廃地対策に取り組んだけども、誰が管理を継続するか、途中で頓挫してしまったと、これが継続的な対策が必要で難しいという答弁でした。

耕作放棄地は日本の多くの地方が抱える問題です。質問の冒頭にもあったように、食料危機が叫ばれている今日、農業面だけでなく、観光、健康、教育面で捉えて、村が主体となって農業振興公社と一緒に、村民が一緒になって、木島平モデルが何かできるのではないかと、一つの取組ができるのではないかと、自分はずっと思っているのですが、それに対してチャレンジできないか、お聞きした。

**議長（勝山 正）**

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

## 村長（日基正博）

村民の大方の皆さん、農地等所有されていると思います。特に条件の悪い農地については維持する苦労というのは、誰もが抱えているのではないかと思います。

そんな意味で考えますと、村が率先してとなると、かなりの予算付け等が必要になのではないかと。その辺どこまでご理解いただけるか、しっかりと見極めなければならないと。それがまた、どのくらいの効果をあげるのかも、しっかり考えながら取り組む必要があるだろうと考えております。

## 議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

## 再々質問

### 4番 山本隆樹 議員

自分としては、今の取組等は、農業振興公社の充実が、もしかすると木島平の農業を守り続ける大きな役目だと思っているんですね。

農地の保全、環境、災害、生態系、景観など暮らしに影響を与え、農業を守ることが木島平の暮らしを守ることだということで、採算が合わなくても、農業耕作、新規就農者の窓口、都市住民との交流する事業に結び付け、観光への一助にもなったりしてくる、そういう振興公社の一層の充実というのは、ここでもっと人員を増やせ、もっとこういう形でやれるのではないかとということ、自分では言いたいのですが、そういう形で一層の充実を図れないのでしょうか。

## 議長（勝山 正）

日基村長。

（村長「日基正博」登壇）

## 村長（日基正博）

農業振興公社としてどこまでできるか、正直言って、農業振興公社には、かなり村からの補助をしているわけであります。その中で、遊休荒廃地対策を行っている状況をご理解いただいていると思います。

先ほど申し上げましたとおり、それを村民の皆様にはどこまでご理解いただけるかということは、しっかり考えなくてはいけないと思いますし、ただ単に、荒廃地を維持するだけでなく、そこで作付けをして食料生産に繋げていくとなるとやはり、採算性、将来的な継続性をしっかり考えていかなければならないだろうと思います。

その辺、さまざまな面から考えながら、皆さんに提案できればと思っておりますので、よろしくお願いたします。

## 議長（勝山 正）

以上で、山本隆樹 議員の質問を終わります。

（終了 午前11時02分）

## 議長（勝山 正）

ここで暫時休憩とします。

再開は、午前11時10分からでお願いします。

（休憩 午前11時02分）